

<b>第 10-14 回</b> (2019/6/25-7/23)	<b>総合演習</b> 北村由美准教授 (附属図書館)
--------------------------------------	--------------------------------

・総合演習については一貫して班ごとに活動。今年度は、インターネット・DBの班を引き継ぐのではなく、第9回授業時に集めたテーマ希望調査票をもとにこちらで調整した。

### ■ 第10回：6月25日(火)

場 所：学術情報メディアセンター南館 303

参加者：受講者 38名 演習補助者 5名

配布資料：レビュー論文の構造ワークシート / キーワードマップ用紙 / 調査テーマメモ / 班名簿  
 (PandA 共有のみ) 講義スライド / グループワーク課題 RW 登録 / 第10回課題

#### ➤ 宿題

- 以下のレビュー論文について、構造を意識しながら内容を読んでくる。  
 佐々木 尚之. フィンランドの家族に関する研究動向. 家族社会学研究. 2016, vol. 28, no. 2, p. 234-241.

#### ➤ 講義 (50分)

- 先生の自己紹介・これまでの内容の振り返り
- グループ発表の内容
  - ・ 発表内容：担当テーマについて掘り下げ、先行研究レビューを行う
  - ・ 発表時間：10分、全員参加
  - ・ 目標：レビュー論文を目指す  
 論文には研究論文、レビュー論文の2種類がある。  
 レビュー論文とは、これまでに言われていることを振り返り、自分たちの視点に基づいて整理した上で、考察を加えたもの。
- 一般的なレビュー論文の構造
  1. イントロダクション (研究の背景、問い)
  2. 研究方法 (先行研究を収集する範囲や方法)
  3. 先行研究整理 (独自の視点によるレビュー)
  4. 考察 (先行研究で言及されていること / いないこと)
  5. 参考文献リスト
- 学会誌と紀要
  - ・ 紀要とは、大学や研究所などで出す、研究論文や調査報告書などを載せた定期刊行物。査読制度があるものや調査報告が中心となるものなど、内容は多様。

#### ☆グループワーク 1

宿題で読んできたレビュー論文について、班ごとに情報共有を行い、ワークシートに箇条書きで記入する。ワークシートの内容は以下のとおり。

1. 問い・著者の問題意識・研究の背景
  2. 研究方法・研究対象
  3. 先行研究整理
  4. 著者の考察・まとめ
- 発表 (レポート) テーマの決め方
    - ・ レポートのポイントは、課題の意図を理解した上で、テーマを設定し、テーマに関する文献を網羅的に収集し、理解すること。先行研究を踏まえた上で、自分の考察を述べ、新しい視点や事実を指摘すること。
    - ・ 本授業の場合は、当たったテーマに関連して何を取り上げたいか、その問題についてのどの

ような分野（角度）から検討したいか、どのようなキーワードが考えられるか、を考えた上で発表テーマを決定し、そのテーマについて先行研究の有無を調査することが必要。

☆グループワーク 2（講義終了後の演習で行う）

以下の手順に従って、グループでテーマを再検討し、再検討したテーマについてキーワードマップを作成し、グループ内で共有する。テーマの再検討の手順は以下のとおり。講義中に具体的な例を挙げて説明した。

1. 事典を引いてみる（What）
2. 4W1Hを考える 年代、場所、誰が、誰にとって、なぜ、どのように、どのような等
3. アプローチする角度（分野）を考える 社会、経済、政治、技術等

- ・ キーワードマップ作成の際のヒントは、基礎知識の確認と関連用語のピックアップ、概念の整理と構造化。

● 基礎知識の確認（百科事典）

- ・ 基礎知識の確認の方法としては、百科事典を引く方法があり、百科事典の例として「Japan Knowledge」を紹介した。

● 概念の整理と構造化

- ・ 自分の興味のあるキーワードを構造的に考えることで、適正な概念レベルの文献にたどり着ける。
- ・ 下位概念になるほど問題が細分化され文献は少なくなり、上位概念になるほど問題が大きくなり関連文献は多くなる。
- ・ テーマを絞ったり、広げたりする際に、下記のような各ツールを活用できる。

NDLサーチ / JST シソーラス / JST シソーラスマップ / Webcat Plus / 新書マップ

➤ 演習（40分）

- グループワーク・本日の課題・RefWorksの登録方法・次回までの宿題について説明（7分）
- グループワーク 2（33分）

➤ 課題（宿題）

- ・ 調査テーマに関する文献調査
- ・ RefWorksのアカウント作成
- ・ 以下のHPの内容を読んで理解してくる。  
公益社団法人著作権情報センター「著作権って何？（はじめての著作権講座）」の一部分  
<http://www.cric.or.jp/qa/hajime/>  
文化庁「著作物等の保護期間の延長に関するQ&A」  
[http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/hokaisei/kantaiheiyo\\_chosakuken/1411890.html](http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/hokaisei/kantaiheiyo_chosakuken/1411890.html)

■ 第11回：7月2日(火)

場 所： 学術情報メディアセンター南館 303

参加者： 受講者 40名 演習補助者 6名

配布資料： キーワードマップのコピー

(PandA 共有のみ) 講義スライド / 第11回課題

➤ 講義（15分）

- 著作権について
  - ・ 課題としていた著作権クイズ 5 問の解説
  - ・ 著作物の保護期間延長
  - ・ クリエイティブ・コモンズの考え方の紹介
- 引用・参照の定義とルール
  - ・ ルールやポイント

…指定されたフォーマットで参考文献リストを作成する。自分の文章と引用部分との主従関係を明らかにする。引用部分は明確化し、出典を明示する。

- ・ バンクーバー方式とハーバード方式の説明
- ・ 図・表の引用方法
- …出典と加工方法を明記する。
- ・ 「引用」「参照」の意味
- …自分の意見や発想の根拠を明示する。自分の意見と他人の意見を区別する。学問は先人たちによる積み重ねであり、後輩に引き継ぐためにも引用・参照は必要。

● 発表のポイント

1. 関連資料を十分に網羅し、読み込んでいるか
2. 関連資料のポイントを的確にとらえられているか、他の人に分かりやすく伝えられているか
3. 各グループならではの着眼点で、先行研究を考察できているか
4. 分かりやすい資料が作成できているか（フォントサイズ、図の利用、目次の挿入）
5. 魅力的なプレゼンができているか（導入、アイコンタクト、声の大きさ）
6. 引用と文献リストの書式をおさえられているか

➤ 講義（15分）

● RefWorks の使い方

- ・ 文献管理ツールとは何か
- ・ ログインの方法
- ・ 各種論文データベース（KULINE / CiNii Articles）から RefWorks への論文情報の取り込み方
- ・ フォルダ整理とレコード編集、コメント機能について
- ・ RefWorks を利用して参考文献リストを作成する方法
- ・ RefShare を利用して文献リストを共有する方法
- ☆ 受講者には、事前に RefWorks のアカウント登録を行ってもらった。登録ができていない受講者にはその場で登録してもらった。

● 学習支援サービス PandA による課題提出・資料の共有について

➤ 演習（60分）

● グループワーク（30分）

- ・ 各自が持ち寄った資料をもとに発表準備を進めた。
- ・ 教員と補助者、学習サポートデスクのスタッフは適宜サポートを行った。

● 発表内容の1分間予告（30分）

- ・ 各班、発表計画を1分程度で説明した。
- ・ 北村准教授から、足りない視点や方向性についてフィードバックを得た。

➤ 課題（宿題）

- ・ RefWorks に文献情報をインポートし、RefShare で共有する課題を課した。

■ 第12回：7月9日(火)

場 所：附属図書館3階ライブラリーホール

参加者：受講者39名 演習補助者6名

配布資料：講義スライド

➤ 講義（15分）

- 発表資料・最終レポート・アンケートについて
  - ・ 先行研究の網羅的な調査方法についての確認
  - ・ 発表資料・発表方法について
  - ・ 学習サポートデスクの案内

- ・ 最終レポートとアンケートの提出方法や期限について
- ・ 発表のポイントについて、過去の発表スライド例をもとに説明
- ☆ 各班の発表日を決めるため、くじ引きを行った。

### ➤ 演習（75分）

- グループワーク
  - ・ 教員と補助者、学習サポートデスクのスタッフは適宜サポートを行った。

### ■ 総合演習発表概要

- ・ 割り振られたテーマをもとに、グループで発表テーマを設定し、先行研究について調査発表を行う。
- ・ 各班、発表時間 10 分＋質疑応答 5 分で発表を行う。
- ・ 発表者は「自己振り返りシート」に記入し提出する。
- ・ 他の履修者は、各班の発表について「発表評価シート」に記入し提出する。
- ・ 「発表評価シート」は回収後、発表班に返却して今後の参考にしてもらう。

### ■ 第 13 回：7 月 16 日(火)

場 所： 学術情報メディアセンター南館 303

参加者： 受講者 39 名 演習補助者 6 名

配布資料： 発表評価シート / 自己振り返りシート

(Panda 共有のみ) 発表スライド (4、8、5、1、7 班)

- 4 班発表「食糧増産の光と陰 ―グリーンレボリューション研究の動向―」
- 8 班発表「睡眠時無呼吸症候群と nCPAP（治療）」
- 5 班発表「中国の水問題 ―長江と黄河に注目して―」
- 1 班発表「都市部における地震と情報 ―ハード面・ソフト面から―」
- 7 班発表「景観保全と観光の両立について」
- ・ 各班、北村准教授・松井教授からフィードバックを得た。
- ・ テーマを選んだ背景やその論文を取り上げた理由を明確に示す必要がある。

### ■ 第 14 回：7 月 23 日(火)

場 所： 学術情報メディアセンター南館 303

参加者： 受講者 33 名 演習補助者 6 名

配布資料： 発表評価シート / 自己振り返りシート

(Panda 共有のみ) 発表スライド (9、10、3、6、2 班)

- 9 班発表「近代アメリカにおける排華移民法の成立過程」
- 10 班発表「カルトと現代社会」
- 3 班発表「京都の世界遺産におけるバッファゾーンの意義」
- 6 班発表「ベーシックインカムは日本の社会保障改善に有効なのか」
- 2 班発表「複合遺産マチュピチュの観光と課題」

16:10-16:15

- ・ 記入された「発表評価シート」を、各班へ配布した。
- ・ 事務連絡（最終レポート、アンケート、半年後のフォローアップアンケート等）

## □2019年度の主な変更点

- 授業会場について
  - ・ 第12回は附属図書館3階ライブラリーホール、第13-14回は学術情報メディアセンター南館303で行った。
  - ・ 受講生全員分のPCが用意できなかったため、できる限り自分のPCを持参するよう指示した。
- 発表テーマについて
  - ・ 今年度は、IN/DBと合同で打ち合わせを行い、先生および補助者で用意したテーマ案から発表テーマを選んでもらうこととした。総合演習では、IN/DB授業時のグループ・テーマを引き継がず、各自のテーマ希望調査票をもとに再調整を行った。
- 第11回の授業構成について
  - ・ グループワークと1分間予告の時間を確保するため、北村先生の講義を25分から15分、RefWorksに関する講義を20分から15分に短縮した。
- 課題について
  - ・ 著作権法の改正にともない、著作権クイズと解説の内容を更新した。
  - ・ 講義スライド、課題説明のプリント等はPandAで共有し、紙での配布は行わなかった。
- 発表について
  - ・ 今年度は全体で10チームとなり、第13回に5チーム、第14回に5チームが発表を行った。チーム数が増えたため、昨年度は20分であった発表時間を10分に短縮した。
  - ・ 昨年度は授業の最後に「発表評価シート」を集計し、各日の得点1位を発表していたが、今年度は時間の都合上、得点の計算を行わなかった。

## □感想・反省等

- 授業会場について
  - ・ 第12回の授業について、昨年度はラーニング・コモンズで行ったが、今年度は受講人数の増加により、ライブラリーホールで行った。テスト期間に授業でラーニング・コモンズを独占するのは望ましくないこと、教室の変更が多いと受講生を混乱させることなどをふまえると、来年度も今年度と同じ会場を使用するのがよい。
  - ・ PCが不足することはなかったが、PCを持参していない受講生については座席を調整する必要があった。
- 発表テーマについて
  - ・ 希望調査票をもとに発表テーマを決定することで、テーマの内容に興味を持って発表やレポート執筆を行うことができた受講生が多かったと思われる。しかし、授業を欠席したため希望とは違うテーマになってしまった受講生もおり、事前に告知するなど配慮が必要である。来年度は、IN/DB授業の最初の時点から希望テーマに沿ったグループ分けを行い、それを総合演習で引き継いでもよいのではないか、という意見がチーム内で出された。
- 課題について
  - ・ 課題説明のプリントについては、紙も配った方が受講生も詳細を確認しながら課題に取り組みやすいと考えられるため、来年度は印刷して配布する。
  - ・ 昨年度から、サポートデスクの利用を課題としているが、デスクの受付時間が限られていることや、発表テーマとスタッフの専門がずれていると深いアドバイス

が難しいことから、来年度は課題とはせず、デスクの紹介のみにとどめるのがよい。

- ・ 最終レポートについて、引用・参照等に関して、こちらの意図が伝わっていないものが多かった。詳細を1枚にまとめた資料を作成すれば、提出前に見直してよいと思われる。必要事項を満たしているか確認するためのチェックシートがあればなおよい。
- ▶ 発表について
  - ・ 発表時間が短いという意見がいくつかあった。来年度以降、受講生の人数が今年度と同程度かそれ以上となった場合、発表の内容やスケジュールを見直す必要がある。
- ▶ その他
  - ・ 初回授業で受講生に配布する講義構成について、現在第10回が講義、第11回以降が演習となっているが、来年度は第10回、第11回ともに「講義・演習」とするほうが望ましい。
  - ・ ファイルの共有や課題の提出に関して、PandAの設定がうまくできておらず、受講生を混乱させてしまう場面があった。補助者側で設定しておくべき項目について、整理してまとめておくとよいと思われる。
- ▶ アンケートについて
  - ・ アンケートを最終レポートとあわせて必須提出としたところ、発表者40名中35名から回答を得た。
  - ・ 平均値はそれぞれ理解度3.93、有用度4.03、難易度3.80であった。
  - ・ 有用だと思うツールについては、「RefWorks」「CiNii Articles」「新聞データベース」が多く、特に「RefWorks」については、32人が有用であったと回答した。
  - ・ 授業時間外にグループで話し合った時間について、「2～4時間」が最も多かった。しかし、発表準備期間が短いという意見もみられた。
  - ・ 用いた方法は「実際に集まった」が最も多く、次いで「LINE」が多かった。
  - ・ 予習については、3名が「予習しなかった」と回答したものの、他32名は「予習した」と回答した。
  - ・ サポートデスクの利用については、10名が「利用した」と回答し、発表準備にあたって有用だったという感想が多かった。
  - ・ 授業前と比べて、授業の目標についてどれくらいできるようになったか尋ねたところ、平均値が4を下回ったのは、「引用や参照のルールについて理解できている」「プレゼンの手法を身に付けることができた」「今後はより充実した内容のレポートが書けると思う」の3項目だった。本授業の到達目標に多くの受講生が到達できたと思われる。
  - ・ 授業を知ったきっかけについて、「全学機構ガイダンス」「シラバス」が多かった。
  - ・ 受講理由について、「今後の研究・学習に役立つから」「図書館の利用法を知りたかったから」「授業内容に興味があったから」が多かった。
  - ・ 授業で特によかった点について、「資料調査の入り口」「インターネットとデータベース」を挙げた受講生が多かった。
  - ・ 授業全体について、11名からコメント・提案を得た。肯定的な意見が多かったが、アンケートやレポートの様式を見直してほしいという意見もあり、来年度以降改善すべき点として検討する必要がある。

(文責：村上 史歩)